

植物多様性センターの「クロマツ、アカマツ」

門松やお正月飾りで使われるクロマツとアカマツは、野生ではどちらも他の樹が生えにくい場所で見られます。両者の好む環境は少し違い、塩害に強いクロマツは海岸付近に多く、やせ地や乾燥に強いアカマツは土砂崩れなどで表土が無くなった土地ではじめに育つ樹(パイオニア植物)です。神道ではマツなどの先の尖った常緑樹には神が降りるとされ、大切にされてきました。手入れが行き届いたマツは美しいですが、厳しい自然の中で生きているマツに出会った時も凜とした強さを感じます。



伊豆諸島ゾーンにあるクロマツ。
裏の芝生側から観察できる。



アカマツは正門左側の林内にある。



クロマツ: 樹皮は黒っぽく冬芽は白い。葉は固く、先を触ると痛い。



アカマツ: 樹皮と冬芽は赤い。葉はクロマツより柔らかい。